

平成24年12月13日
東海旅客鉄道株式会社

東海道新幹線 駅ホームへの可動柵設置について

東海道新幹線では、平成24年3月に東海道・山陽新幹線から300系車両が引退して扉位置がほぼ統一されたこと、また、新型可動柵の技術開発に目途がたったことから、ホーム上の安全性をさらに向上させることを目的に、平成23年末から10年程度をかけて、お客様のご利用の多いのぞみ停車駅を対象に、可動柵を設置することを検討しています。

1. 現在の可動柵設置工事の状況

(1) 既設の箇所

- ・品川駅（21・24番線）、新横浜駅（2・3番線）、熱海駅（6・7番線）

(2) 東京駅

- ・今年度末の供用開始をめざし、14番線で新しい可動柵の設置工事を進めています。
（14番線の完成後、15～19番線への設置工事を進め、順次使用を開始）

(3) 新大阪駅

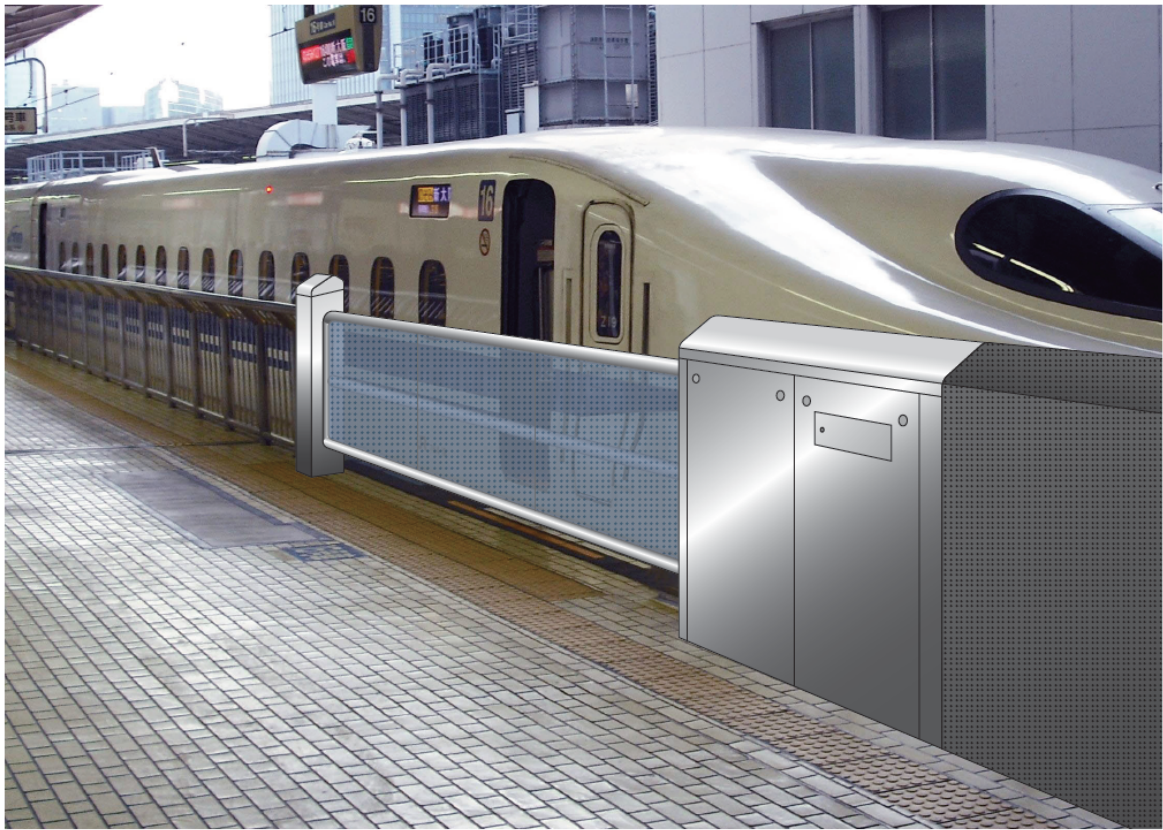
- ・今年度末の供用開始をめざし、27番線で新しい可動柵の設置工事を進めています。

2. 今後の可動柵設置計画（可動柵のイメージは別紙1参照）

- ・お客様のご利用の多い、のぞみ停車駅に設置を検討しています。
- ・次のステップとして、京都駅・名古屋駅への設置を検討しています。
詳細なスケジュールや工事費等は、計画がまとまり次第、改めてお知らせいたします。
- ・なお、新大阪駅20～26番線については、16両編成の他に8両編成の車両が入線し、扉位置が統一されていないため、この計画には含まれておりません。

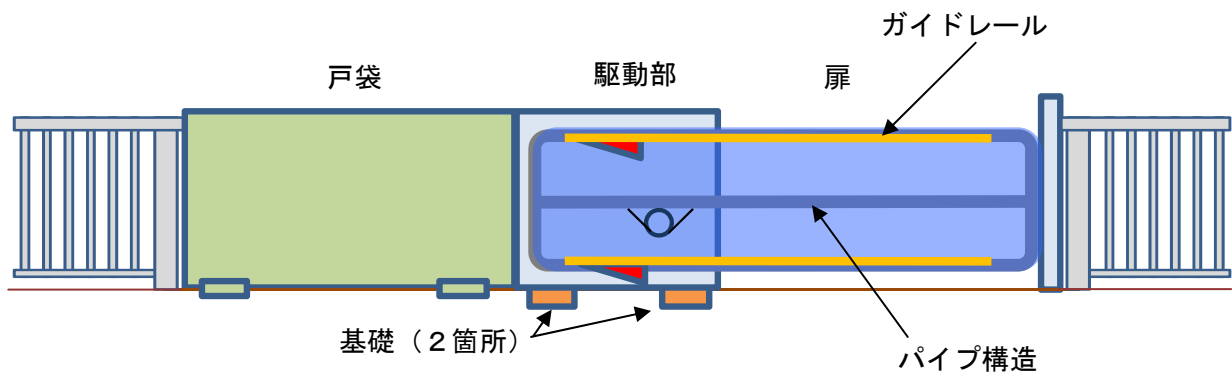
別紙1 各駅に設置する新型可動柵の設置イメージ (参考：平成23年9月29日発表済)

○新型可動柵設置イメージ



○従来型可動柵と新型可動柵の構造

新型可動柵



従来型可動柵

